

Evening Wide

まちかどエッセー

高橋 由佳



多様性を認め合う社会

私たちの法人は農作業を通して心のケアと就労支援をする「イシノマキ・ファーム」を運営しています。

先日、そのボランティア活動に多くの方々が参加してくださいました。

仮設住宅で一人暮らしの

その光景は、まさに共生社会そのものを映しているようです。

これがもし、都市部のオフィスビルの中だと、どうなるでしょうか。あの人はどんな経歴なのか、障がいのある方なのか、気に掛か

「種する」というただ一つの目標に向かってひたすら作業をしていました。

一人の若者が「俺、いま農業を目指そうと思って勉強してるんだ」と堂々と希望を語る姿から、昨年の冬に力キ作業場で就労体験を

山暮らしの人間の方が、お金はないけど、はるかに豊かな生活を送っているということを実感している」と書いています。5人に1人が一生に一度、心の不調の問題を抱える時代となり、私たちは、働き方そのものを考え直さなければならなくなつたともいえます。

職業選択や仕事のスタイル

おじいちゃんが不登校の高校生に農機具の使い方や、あるお母さんはタマネギの束ね方を障がい者の方々に手ほどきしてくれてい

るのかもしれない。しかし、ファームで作業をしている皆さんはお互い、どんな経歴の人なのか聞きもせず、「農作業をする」「収

した若者が「海のおいが好きになつたから海の近くで仕事をしたい」と力強く話してくれたことを思い出しました。

姿を見て感じます。だからこそ、多様な働き方を認め合う社会になることを願つてやみません。

たかはし・ゆかさん 認定NPO法人Switch理事長。64年仙台市生まれ。心のケアが必要な学生や障がい者の就労・就学を支援する「Switch」を11年に設立。仙台NOTE「ユースサポートカレッジ石巻NOTE」などを運営する。精神保健福祉士、産業カウンセラー。仙台市泉区在住。

藻谷浩介氏は著書「里山資本主義」の中で、「都会であくせくサラリーマンをやっている人間よりも、里